

新島学園短期大学ティーチング・ポートフォリオ

所属学科	コミュニティ子ども学科	職位・氏名	教授 鈴木まゆみ
------	-------------	-------	----------

1. 教育の責任（何をおこなっているのか／担当授業科目その他）

【春学期】

- 「基礎演習Ⅰ」 1 年次 卒業必修 2 単位
- 「子どもの理解と援助」 2 年次 保育士資格必修 1 単位
- 「保育内容言葉」 1 年次 保育士資格/幼稚園免許必修 1 単位
- 「子どもと言葉」 2 年次 幼稚園免許必修 1 単位
- 「子育て支援」 2 年次 保育士資格必修 1 単位（1 年通年）
- 「卒業研究Ⅰ」 2 年次 卒業必修 1 単位

【秋学期】

- 「基礎演習Ⅱ」 1 年次 卒業必修 2 単位
- 「保育教職実践演習（幼稚園）」 2 年次 保育士資格/幼稚園免許必修 2 単位
- 「保育内容の理解と方法（身体）」 2 年次 保育士資格必修 1 単位
- 「子育て支援」 2 年次 保育士資格必修 1 単位（1 年通年）
- 「卒業研究Ⅱ」 2 年次 卒業必修 1 単位

2. 教育の理念・教育目標（どのような考えに基づいて行っているか）

【教育の理念】

1. 本学の教育の理念である【真理】自分の使命を探究すること【正義】信念に基づいた行動力を持つこと【平和】相手の価値観、感情を尊重することを根底とし、新島襄の「人一人ハ大切ナリ」の言葉を日々の教育の中で具現化し、本学の教育活動に真摯に向き合っていきたい。
2. 本学の 3 つのポリシーを鑑み、カリキュラムマップで示されたディプロマ・ポリシーとのつながりを意識して担当科目の授業を運営していきたい。また、短期大学に求められる教養教育、職業教育、生活に役立つ教育を心がけ、コミュニティ子ども学科の教育目標の達成を目指し教育実践に取り組む。

【教育にあたっての目標】

1. 学生一人ひとりの中に現代社会における子どもの課題や社会の要請をふまえた子ども観の形成を促す。
2. 保育の計画・実践・振り返りを体験し、保育の質を高めるための営みを理解し、自ら保育の質的な高まりを志向する保育者の育成を目指す。また、グループでの協働の体験を通して、チーム・ティーチングの大切さを伝える教授法を工夫する。
3. 世界の中で展開されている保育を理解し、自分が理想とする保育とは何かを考えることのできる保育者の育成を目指す。
4. 地域の子育てのニーズを検証し、次世代を担う子どもの育成と子育て世代の支援に貢献することの意義を理解し、社会に巣立っていくことのできる人材の育成を目指す。

5. 保育現場での経験や絵本の研修会、防災士、アンガーマネジメントなどの専門的な知識、技能を各科目の教授内容に活かしていく。

3. 教育の方法（その考えをどうやって実現しているか/実践の工夫）

（その方法を行った結果、どうなったかの一部も含めて記述）

1. 学生一人ひとりの中に現代社会における子どもの課題や社会の要請をふまえた子ども観の形成を促すために

・ジグソー法の活用 1

「子どもと言葉」の授業において、現代社会における子どもの言葉における課題について、テーマごとのグループに分かれて話し、グループでその内容をまとめた。その後、異なるテーマを担当した学生と組み、新たなグループで知識を交換した。各自の知識を組み合わせ、現代社会における子どもの言葉における課題に対する学生なりの答えを作ることができた。

・ジグソー法の活用 2

「保育内容の理解と方法（身体）」の授業において、現代社会における子どもの健康における課題について、指定されたテーマごとのグループに分かれて取り組んだ。その後、異なるテーマを担当した学生と組み、新たなグループで知識を交換した。その際、発表の担当の他に質問担当の班も決め、自由なディスカッションの他に質問担当班は事前に発表班の資料から質問を考えてくることを事前課題とした。各自の知識を組み合わせ、現代社会における子どもの健康における課題に対する学生なりの答えを作ることができた。

・ジグソー法の活用 3

「子どもの理解と援助」の授業においては、幼児期と学童期のかけはしりプログラムについて、日本における先進的な取り組みをグループに分かれて調べた。その後、異なるテーマを担当した学生と組み、新たなグループで知識を交換した。各自の知識を組み合わせ、現代社会における幼児期から小学一年生になる過渡期における（小 1 プロブレム）課題に対する学生なりの答えを作ることができた。

・外部講師による授業

「保育教職実践演習（幼稚園）」の授業においては、幼児期と学童期のかけはしりプログラムについて高崎市教育委員会の協議会担当者を外部講師として招き、プログラムの構造、取り組みの実情を理解することができた。

2. 保育の計画・実践・振り返りを体験し、保育の質を高めるための営みを理解し、自ら保育の質的な高まりを志向する保育者の育成を目指すために。

・アクティブラーニングの活用

「子育て支援」の授業では、2 年次に一人 2 回、チャイルド広場に参加の機会を設けている。広場開催の間、担当の親子のサポートをする他、乳児に向けて 20 分間の保育を実践している。

当日の保育に向けては、10 人程度のグループで、保育の計画を立て、制作物などの準備や大型絵本やふれあい遊び、ピアノ演奏などの実技練習の後、チャイルド広場の部屋で当日を想定した模擬保育の実践を行う。その後、グループ内で模擬保育の振り返りを行い、改善に向けて出された意見を基に保育を再構成し、「子育て支援」の授業内で学生全員の前で再び模擬保育を実践する。

2年生全体の場合では、さらに多様な視点での振り返りが行われ、保育の再構成が再び行われる。学生は、その1週間後にチャイルド広場の当日を迎え、子どもたちに保育を実践する。実施後は、参加者アンケートの中に、学生の保育に関する質問項目があり、その結果については、「子育て支援」の授業において全員で共有している。保育に取り組んだ学生一人ひとりの振り返りも全体場で発表し、保育の質を高めるための具体的な取り組みを体験的に知るアクティブラーニングを展開している。

・田の字法の活用

「子どもの理解と援助」の授業では、保育カンファレンスを想定し、保育現場での課題を田の字法で検討することに取り組んだ。田の字法では、お互いの意見を伝えあい、グループで一つの結論を導きだす練習をした。自分が理想とする保育と他者が理想とする保育の接点を確認し、子どもの視点にたち、保育の実践に活用できる体験を展開した。

3. 世界の中で展開されている保育を理解し、自分が理想とする保育とは何かを考えることのできる保育者の育成を目指すために

・ジグソー法の活用 4

「子どもの理解と援助」の授業では、「ニュージーランドのラーニング・ストーリー」や「北イタリアのレッジョエミリア」の保育について、指定されたテーマごとのグループに分かれて取り組んだ。その後、異なるテーマを担当した学生と組み、新たなグループで知識を交換した。世界の中にあるホリスティックな保育観を理解し、各自の知識を組み合わせ、自分が理想とする保育とは何かを考えるきっかけを作ることができた。

4. 地域の子育てのニーズを探求し、次世代を担う子どもの育成と子育て世代の支援に貢献することの意義を理解し、社会に巣立っていくことのできる人材の育成を目指すために

・グループワークの活用

「子育て支援」の授業では、2025年度における第1回～第7回のチャイルド広場アンケート結果を学生に公開し、参加者のニーズについてグループワークの中で検証した。次回に向けて改善の必要があるデイリープログラムや参加者への言葉がけ、援助、環境構成などは、参加者のニーズに添い具体策を検討し対応することができた。

5. 保育の現場での体験や絵本専門士の研修、防災士、アンガーマネジメントなどの専門的な知識、技能を各科目の教授内容などに活かすために。

・絵本専門士の研修で得た知識と技術は、1年次「保育内容言葉」、2年次「子どもと言葉」の授業において活用している。また、アンガーマネジメントやコーチングの研修における知識は「子育て支援」の保護者対応の教授内容に取り込んでいる。更に、防災士研修で得た知識や技能は、「保育内容の理解と方法（身体）」において、保育の安全面の教授内容に取り込んでいる。

4. 教育の成果（その方法を行った結果、どうなったか/結果と評価）

1. 授業アンケートの結果から

＜春学期アンケート結果：シラバスに記載の学習成果が身に付いたかの数値を記載＞

「基礎演習Ⅰ」 4.75 「子どもの理解と援助」 4.56 「保育内容言葉」 4.73

「子どもと言葉」 4.63 「子育て支援」 4.6 「卒業研究Ⅰ」 4.75

＜秋学期アンケート結果：シラバスに記載の学習成果が身に付いたかの数値を記載＞

「基礎演習Ⅱ」 5 「保育教職実践演習（幼稚園）」 4.6 「保育内容の理解と方法（身体）」 4.62

「子育て支援」 4.6 「卒業研究Ⅱ」 4.83

＜春学期アンケート自由記述式の内容から＞

パワーポイントでの資料で緑の文字が見えにくいという意見があったため、全ての学生が理解しやすい資料となるよう改善した。

授業アンケートの結果は、上記以外の項目も 4.5 以上であったが、学習時間は 1 時間前後が多く、事前事後学習の取り組みに課題が残った。

2. 授業時リアクションペーパーの記述内容から

【ジグソー法を活用した授業】

「子どもと言葉」の授業では、現代社会における子どもの言葉における課題について多様な意見を知る機会となり、自己の考えを整理することができたという振り返りが多く見られた。また、「保育内容の理解と方法（身体）」の授業においては、現代社会における子どもの健康における課題について、群馬県による取り組みを具体的に知ることができ、行政の取り組みに対する見解について意見交換をすることが有意義だったという感想が多くあった。

【アクティブラーニングを活用した授業】

「子育て支援」の授業では、2 年次に一人 2 回、チャイルド広場において参加する乳児に 20 分間の保育を実践したことで、保育の営みについて具体的に知ることができ、保育の質的な高まりにつながる再構成の方法について理解が深まったという振り返りが多かった。また、他の科目で学んだ造形や音楽などの知識や技能が、子どもたちの保育にどのように活かされるのか実践的な学びにつながり、学生の中に喜びや手応えが感じられ、達成感が高まっていた。さらに、保育の質を高めるためには、振り返りを基にした再構成が不可欠であり、保育の循環の在り方についての気づきが多く記入されていた。

【田の字法を活用した授業】

「子どもの理解と援助」の授業では、保育カンファレンスを想定し、保育現場での課題を田の字法で検討することに取り組んだが、普段自分の意見を発言できない学生が、付箋に自己の見解を記入し発言したことで自信がついたという振り返りが見られた。また、学生は、お互いの意見を伝えあい、グループで一つの結論を導き出す練習を重ねた結果、保育現場で日常的に行われている保育内容や方法の選択が、子どもの視点に立つことで整理され、合議の上で一つの結論が導き出されることを学んでいた。自分が理想とする保育と他者が理想とする保育の接点を確認し、子どもにとっての最良の保育を考えることの大切さを記入する学生が多かった。

【2025 年度チャイルド広場アンケート結果を活用した授業】

2025 年度チャイルド広場アンケート結果は、チャイルド広場終了後の授業で、毎回全員に共有している。

アンケート内容の理解を助けるために、可視化できる動画や写真を使って当日の内容を全員で共有し、担当した学生は、振り返りと次回担当班へのアドバイスを伝えている。参加班は、取り組みの様子を振り返り事後レポートも担当教員に提出している。

アンケート結果の振り返りは、参加者のリアルなニーズを理解することとなり、そのニーズに応えるための対応を検討する時には、学生の積極的な意見が多数出されている。アンケートで毎回確認されるのは、学生の親子へのサポートに対する感謝の言葉である。学生からは、どのような距離感でコミュニケーションを図ればいいのか難しいという振り返りが多いが、心を込めてかかわった行為に対して感謝をされることで、次回はさらに豊かな援助を展開したいという動機づけが図られている。保育の実践に対しても、乳児や保護者がどう受けとめたかが具体的にわかるので、課題については次回に向けて改善を具体的に立てて臨みたいという見解が殆どの学生に見られる。

家庭内保育の親子への地域連携活動となるチャイルド広場を体験し、子育て支援の大切さを自分の肌で感じ取っていることがレポートの内容から読み取れる。

3. 自己評価から

①現代社会に生きる子どもの課題を学生なりにとらえ、どのような子どもに育ってほしいのかという自分なりの「子ども観」を描くことができたか。

↓

・現代社会に生きる子どもの課題を学生なりにとらえることはできたが、どのような子どもに育ってほしいのかという自分なりの「子ども観」を描けたかについては確認ができていない。

②保育の基本的なサイクルを理解し、保育の質的な高まりを目指して振り返りからの再構成の方法を実践の中で検証することができたか。

↓

・チャイルド広場で、乳児に向けての保育を実践する中で保育の基本的なサイクルを理解し、質的な高まりを目指して振り返りからの再構成の方法を検討することはできた。

③自己の意見を伝えながら他の学生の意見も受けとめ、子どものために最良の保育内容と方法をグループ活動の中で検証し、チーム・ティーチングの意義を理解することができたか。

↓

・学生一人ひとりがどのようにグループの中で役割を意識し、協働する取り組みができたかについての振り返りは曖昧であり、学生に取り組みの評価基準となるルーブリック評価を提示できていない。

④世界における保育の多様な取り組みに興味を持ち、自分が理想とする保育とは何かを考えることができたか。

↓

・保育の多様な取り組みについては、課題として提案があれば熱心に取り組むが、自分の理想とする保育

の探求を自主的に取り組むには至っていない。

5. 今後の目標（今後どうするか）

【長期目標】

- ・本学の教育の理念、3つのポリシーを鑑み、カリキュラムマップで示されたディプロマポリシーとのつながりを意識して担当科目の授業を運営するために、全学的な取り組みの中で、学生の学習成果が可視化できる方法を模索する。
- ・高崎市教育委員会、近隣の幼稚園や保育園などにつながりながら、地域の中で子育てに貢献することを体験できる授業内容を構成する。
- ・卒業後も自らの学びにより成長が継続できるよう、「結果の予測（目標設定）」や「目標実現に向けた計画立案」「自分が使える能力や機会を評価・振り返り、自身のモニタリング」「逆境の克服」などの多様な能力である「エージェンシー：よりよい未来の創造に向けた変革を呼び起こす力」の育成につながる教育を授業の中で一つずつ具体化していく。

【短期目標】

- ・「子育て支援」におけるチャイルド広場への参加が学生の学びに有効であった結果を受けて、2026年度は参加回数を増やし、保育の基本的なサイクルを理解し、保育の質的な高まりを目指して振り返りからの再構成の方法を実践の中で検証することのできる授業運営を展開する。
- ・今後施行される教育指針関係の改訂をふまえ、今後の動向を授業に反映させていく。
- ・学生の保育観や子ども観の育成に有効である保育課題の探求の機会は、教授法を工夫しながら各授業の中に設定し、評価基準となるルーブリック評価の内容を再検討する。
- ・「保育教職実践演習（幼稚園）」の授業においては、高崎市教育委員会の協力を得て、かけはし期プログラムの担当者より高崎市の現状を理解する機会を継続して設ける。また、近隣の幼稚園などにアプローチし学生の取り組みを地域の中で展開する機会を増やしていく。

6. 根拠資料

- ・2025年度学生便覧 カリキュラム表
- ・2025年度コミュニティ子ども学科カリキュラムマップ
- ・2025年度新島学園短期大学春学期授業アンケート結果
- ・2025年度新島学園短期大学秋学期授業アンケート結果
- ・2025年度第1回チャイルド広場アンケート結果（学生に公開）
- ・2025年度第2回チャイルド広場アンケート結果（学生に公開）
- ・2025年度第3回チャイルド広場アンケート結果（学生に公開）
- ・2025年度第4回チャイルド広場アンケート結果（学生に公開）
- ・2025年度第5回チャイルド広場アンケート結果（学生に公開）
- ・2025年度第6回チャイルド広場アンケート結果（学生に公開）
- ・2025年度第7回チャイルド広場アンケート結果（学生に公開）
- ・2025年度授業リアクションペーパー、課題レポートの記述内容（学生に公開）